

会 議 録（要旨）

会議の名称	令和6年度第1回戸田市福祉施策審議会
開催日時	令和6年6月21日（金）午後2時00分 ～ 午後3時30分
開催場所	戸田市役所 501会議室
出席者	<p>会 長：田 嶋 英 行</p> <p>副会長：松 山 由 紀 委 員：佐 藤 静 子</p> <p>委 員：河 合 由美子 委 員：染 川 智 行</p> <p>委 員：早 船 正 彦 委 員：磯 部 恒 子</p> <p>委 員：今 井 教 雄 委 員：櫻 井 聡</p>
欠席者	委 員：大 坪 美 元 委 員：河 野 本 生
事務局	<p>戸田市福祉保健センター</p> <p>木村所長、野口担当課長、細川副主幹、廣居主任</p> <p>戸田市社会福祉協議会</p> <p>増淵課長、山本課長補佐、板井係長</p>
議 題	<p>（1） 第5期戸田市地域福祉計画・第5期戸田市社会福祉協議会地域福祉活動計画の進捗について</p> <p>（2） その他</p>
会議結果	別紙のとおり
会議資料	<p>【次 第】</p> <p>【資料1】 第5期戸田市地域福祉計画・第5期戸田市社会福祉協議会地域福祉活動計画の進捗について</p> <p>【資料2】 重層的支援体制整備事業について</p>

(会議の経過)

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<p>■開会</p> <p>司会及び開会の挨拶、資料確認</p> <p>委員の互選により田嶋会長、松山副会長が全会一致で選出された</p>
事務局 (市、社協)	<p>■議事</p> <p>(1) 第5期戸田市地域福祉計画・第5期戸田市社会福祉協議会地域福祉活動の進捗について</p> <p>資料1に基づき説明</p>
委員	<p>資料2ページ、「生涯学習活動を行っている市民の割合」について伺いたい。数値が減少した要因として、調査元アンケートを生涯学習課による「生涯学習に関する市民意識調査」から共創企画課による「市民意識調査」へ切替を行ったため、ということであるが、アンケート対象者等の違いはあるか。</p>
事務局(市)	<p>生涯学習課によるアンケートは生涯学習施策に関する調査であり、共創企画課によるアンケートは市政全般に関する調査である。調査は共に市民を対象とした無作為抽出により実施している。</p>
委員	<p>生涯学習を行っている市民の割合について、目標数値の変更はあるか。</p>
事務局(市)	<p>令和6年度以降の動向により、必要に応じて検討したい。</p>
委員	<p>資料3ページ、福祉に対する市民意識の向上について伺いたい。市内小学校の福祉学習の内容は。</p>
事務局(社協)	<p>ボランティアによる高齢者体験であったが、新型コロナウイルスの影響でこれが不可能になり、代わりに器具を学校に貸し出している。今後</p>

委員	<p>はボランティアグループと協力しながら活動を再開していきたい。</p> <p>海外ではボランティア活動を単位認定している。学校休暇中に地域の高齢者たちと交流するなど、地域コミュニティとの交流を促す機会を設けるべきだと考える。教育委員会や学校との連携は。</p>
事務局（社協）	<p>夏休み期間にボランティア活動をするきっかけづくりのための、彩の国ボランティアプログラムを実施している。学校を通じた事業の周知について研究していく。</p>
会長	<p>市長は障害者スポーツにも熱心に取り組んでいるという。また、戸田市の教育委員会も多くの先進的な取り組みを行っている。福祉体験学習やボランティア活動が盛り上がっていけば自ずと学校も協力すると思われる。</p>
委員	<p>先日、ボランティアで「おしゃべりサロン」を訪れた。サロンでは色々な催し、例えばゲームやおやつ等を提供していたが、参加者が思ったよりも少なく残念に思った。もっと市民に対してアピールされていたら、より多くの方が参加したのではと思う。</p>
委員	<p>今回初めて計画を読んで、市や社会福祉協議会が多くの事業に取り組んでいることが分かった。しかし、こういった情報が市民に十分伝わっていないと感じる。</p>
委員	<p>学校関係者と話す機会があったが、児童・生徒に問題が発生した時、学校は主にこども家庭相談センターへ連絡するというシステムが確立されている。学校と民生委員・児童委員がより連携し、こどもたちと関わっていったらよいと感じる。また、コロナ禍以降、高齢者とこどもたちの関りに壁があると感じる。これらの壁をなくすための取り組みが進むことを望む。</p>
副会長	<p>地域福祉計画の計画目標はコロナ禍前の基準で設定されており、コロナ以降の社会変動を反映していない。コロナ禍を経験して地域福祉は大</p>

	<p>大きく変化した。コロナ禍に伴う活動自粛期間中、ボランティアの高齢化が進んだが、しかし一方で、こどもの居場所の数は大きく前進している。高齢者のみでなく、高齢者も子どももすべての世代が活躍できる地域となってもらいたい。</p>
会長	<p>5ページにあるようなICTを活用した施策は、今後の地域福祉活動において有望だと感じる。高齢者向けのスマートフォン教室は良い取組だと思う。退職したシニア世代でもITスキルのある人がいる。このような人材が地域で活躍できる仕組みがあると良いのでは。</p>
委員	<p>学校の設備は素晴らしいが、地域の方々にあまり利用されていないと感じる。夏休みなどに学校施設を開放し、地域の方と交流できる仕組みがあると良い。</p>
委員	<p>教育委員会や学校との連携について、例えば、学校に通っていない子どもなど、枠組みから外れた子どもを地域社会や社会福祉協議会が補完することが大切だと考える。</p>
会長	<p>その他意見や質問はあるか。</p>
委員一同	<p>なし</p>
	<p>■その他</p>
	<p>(2) 重層的支援体制整備事業について</p>
事務局（市）	<p>資料2に基づき説明</p>
会長	<p>何か意見はあるか</p>
委員	<p>福祉総合相談窓口を充実させた体制となるのか。</p>
事務局（市）	<p>どのような相談支援体制とするかは、現状の課題を整理し、先行する</p>

	他自治体の状況を参考に検討を進める。
会長	実施時期は決まっているか。
事務局（市）	未定である。
副会長	重層的支援会議でプランを作成し、各相談窓口やコミュニティソーシャルワーカーのような既存の取組と地域をつなぐ仕組みをつくるといった理解で良いか。
事務局（市）	そのとおりである。
会長	その他意見や質問はあるか。
委員一同	なし
	■閉会